

## 第11 イエスの物語を伝える

### 【暗唱聖句】

「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです」第一ヨハネ 5:13

### 【日曜日・イエス—私たちのあかしの基礎】

私たちは、イエス様と出会い変えられました。これ以上大きな証はありません。イエス様に出会う前と後とでは何が変わってしまうのかについて、パウロはエフェソ 2:1~10 の中で、次のように書いています。

イエス様と出会う前…「自分の過ちと罪のために死んでいた」「この世を支配する者の霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいた」「肉や心の欲するままに行動していた」「神の怒りを受けるべき者だった」

イエス様と出会った後…「キリストの愛・憐み・慈しみ・恵みを得た」「死んでいたのにキリストと共に生きるものとなった」「天の王座に着かせていただいた」「誇ることのないものとされた」「善い業のために歩むという生きる目的が与えられた」

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備して下さった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」エフェソ 2:10

イエス様と出会うと、私たちは神様のために造られたことを知ります。そして、善い業のために歩むという生きる目的が与えられますが、それは何と前もって神様が準備して下さったものだというのです。私たちは救われるために善い業に励むものではありません。初めからそのために生まれてきたから行うのです。だから、とても自然なことであり、生きる喜びとなるのです。

### 【月曜日・人を変える個人的な証の原動力】

愛の手紙を書いたヨハネは、イエス様と出会ったばかりの時は短気で、イエス様から「雷の子」と言われるほどでした。漁師というのは、波にもまれて命がけの世界に生きているために、往々にして荒々しい気性の人が多いのですが、ヨハネもその一人だったようで、それを如実に現わすエピソードが出てきます。それはサマリヤ人の村でイエス様たちが歓迎されなかったとき、弟子のヤコブとヨハネが、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」（ルカ 9:54）と言った言葉からも分かります。そのときは二人をイエス様が戒められたのですが、そのような怒りやすい性質だったヨハネが、やがて愛の使徒と呼ばれるまでに変えられていくのです。ヨハネのことをよく知っている人が見れば、イエス様を信じると、これほどまでに人が変えられてしまうのかと驚いたことでしょう。何を語らずとも、その人自身が変えられてしまうことそのものが、神様の素晴らしさを証していくことになるということです。

ヨハネがどれほど愛の人に変えられたのかは、彼の書いた手紙の中によく表されています。ヨハネは、「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか…それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほど」（第一ヨハネ 3:1）だと述べ、「生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します」（第一ヨハネ 5:1）と続けます。そして、「愛する者たち、互いに愛し合いましょう」（第一ヨハネ 4:7）と教えています。ヨハネの第一の手紙の中だけでも「愛」という言葉が 40 回近く登場し、同じ意味の言葉がさらに 50 回登場しています。それほど愛が大切であることをヨハネは悟り、変えられていったのでした。

### 【火曜日・イエスの物語を話す】

聖書の中に悪霊に取りつかれていた男が、イエス様によって解放される物語が出てきます。マタイ・マルコ・ル

カにそれぞれ記載されており、場所の名前や悪霊に取りつかれた男の数などに若干の違いが見られますが、イエス様によって悪霊が追い出され、全く作り変えられてしまうという点では同じです。彼はイエス様に従っていきたくて願いましたが、イエス様は家に帰るようにと言われます。家で救われた喜びを証しなさいということです。家族や彼のことを良く知っている人たちは、彼の変えられた姿を見てどれほど驚いたことでしょうか。彼は家族に伝道するだけでなく、デカポリス地方（10の都市）全体にも言い広め始めました。イエス様によって救われたことが、伝道力となっていたのです。周囲の人たちは彼を見て大変驚きましたが、同時に並外れた力を持つイエス様に驚異も感じたようです。

#### 【水曜日・確信をもって証する】

「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです」ヨハネの手紙一 5:13

ヨハネは、永遠の命を得ていることを悟らせたいと言っています。自分が救われて、永遠の命を得ていることに確信が持てない人があるからでしょう。信仰とは、イエス様の愛を疑わないで信じることです。この確信がなければ、クリスチャンでも不安や恐れがつきまといまいます。また、永遠の命の確信がなければ、他者に永遠の命の福音を述べ伝えることはできません。

「それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入ると確信しています」ヘブライ 10:19

パウロはイエス様の血（十字架の贖い）によって、聖所に入れるつまり神様のもとに行くことができると確信していると述べています。このようなぐらつくことのない確信が信仰者には必要なのです。悪魔はこの確信をぐらつかせようといつも攻撃してきます。様々な不安や恐れがやってくるとするなら、それは確信のなさの表れかもしれません。

#### 【木曜日・証をするに価すること】

イエス様は、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（ルカ 9:23）と言われました。自分の十字架とは、自分に死ぬということを意味しており、それは痛みのあるものです。パウロは、「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」（ガラテア 2:19b, 20）と、自分がキリストと共に十字架で死んだのだと言っています。では、十字架で自分に死ぬとどうなるのでしょうか。パウロは「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」と言っています。古き人が死ぬと、新しき人に生まれ変わることができるのです。しかし、私たちがどれだけ自分自身に死に、どれだけキリストのために何かを犠牲にしたとしても、キリストが私たちのためにしてくださったことに比べれば、取るに足りません。私たちの証は、自分がどれほどキリストのために行ったかではなく、キリストがどれほど私たちのためにしてくださったのかということ語るのです。イエス様が私たちにして下さったことの一例を挙げると・・・

「自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた」ヨハネ 1:12

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」ヨハネ 10:10

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」ヨハネ 14:27

「神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。」コリント一 1:30